

酔いどれ 取材メモ

オレは酒匂徳利。定年間際の新聞記者だ。無類の酒好きから「徳利の徳さん」と呼ばれることが多い。自分の足を信じる古いタイプのブンヤで、出世とは無縁だが、なぜか酒にまつわる事件情報が集まってくる。

1年は早いもんだな。また宴会の季節がやってきた。静かに酒を味わう至福の機会を奪われる騒がしいこの季節。酒を愛するオレとしては受け入れ難いが、多くの酒の消費を期待する業界関係者も多く、頭から否定もできない。ただ、当然、酒絡みの事件も増える。酒を冒瀆する輩には筆誅を下す。それが愛する酒への恩返しだと信じているから……。



酒はその人の人間性を引き出す一方で、心情や行動の抑制力を麻痺させてしまう。心地良いで収まるならいいが、一線を越えると、人によって酒は凶器と化してしまうことを忘れてはならない。

9月22日、小田急の特急ロマンスカー車内

で起きた忌まわしい事件からお伝えしよう。47歳の埼玉県の自称会社役員は、ロマンスカー車内で携帯電話で通話していた。マナー違反であることは言うまでもなく、車掌に2度にわたって注意を受ける。それに逆上して突然殴りかかり、あえなく御用。酒に酔っているばかりか、「他にも大声の客がいたのに自分だけが注意をされた」との自分勝手な言い訳が醜い。

2016年はカーブが四半世紀ぶりにセリーグ優勝を果たした。こりゃ、なんか起きるぞと身構えていたら、やっぱり起きた。でも場所は広島でなく九州、福岡は大牟田市からの情報だった。カーブ優勝の機運が高まりつつある7月下旬の夜、帰宅中の夫婦に男が近寄り、持っていた懐中電灯で夫を小突いた疑い。なんともセコい事件だが、犯人逮捕はおよそ2カ月後。決め手となったのが、カーブの赤いユニフォームだった。地元では「カーブおじさん」として有名だったとか。カーブおじさんだらけの広島なら迷宮入りだったかも。

9月30日、札幌の医師が学会のため訪れていた福岡で悪酔い、中洲の橋の上で面識のない女性の髪をつかみ転倒させた。スマホで写真を撮られたと思ったこの女性と口論になったという。

タチの悪いヨッパライは男ばかりとは限らない。10月1日、名古屋での出来事だ。タクシー料金を踏み倒そうとして強盗の疑いで逮捕されたのは23歳の無職の女だ。乗車したタクシーの料金4000円を払わないばか

りか、傘で殴ったり、腕を噛んだりなど男性運転手に暴行を働いた。「分らない」と容疑を否定するが、なんとも酒グセの悪い女だ。

10月10日午前3時ころ、北海道は紋別で、テロを彷彿とさせる交番襲撃の知らせが入った。だが実際は41歳の柔道整復師が酔って交番の出入り口の引き戸ガラスを蹴り割ったお粗末な事件だった。

その10日ほど後、バカな父娘がやらかした。兵庫県小野市でのこと。51歳の父親が焼き肉店のアルバイト店員の顔を平手で数回叩いて現行犯逮捕された。注意されたことに腹を立てての犯行だが、このバカオヤジ、酒に酔って店内のごみ箱に小便をしようとしたというから開いた口が塞がらない。さらに店員ともみ合っている姿を見たバカ娘も父親に加勢したという。

10月28日、千葉県市原署は、62歳の男を逮捕した。この男は市原署敷地内に灯油をまいて火を点けようとしたという。「市原署に放火して自殺しようとした」というが、これも酒のなせる業であるならなんと悲しい。

11月2日、愛知県の海部南部消防署の44歳の職員は名古屋駅そばの居酒屋で、酔った勢いで女性店員に抱きついたり、下半身を触ったりしたとして、警察の事情聴取を受け、懲戒処分された。

4日後の6日、西武池袋線小手指駅に停車していた車内。職業不詳の36歳の男が酔って寝ていたため、起こそうとした駅員は頭突

きをくらわされたという。もちろん、現行犯逮捕されたのは言うまでもない。

11月13日、英会話学校講師の50歳の英国人。酒に酔って異国の地で傷害事件を起こした。埼玉県内のファミレスで所持していたアーチェリーの矢を放ち、近くにいた男性客ともみ合いに。拳銃男性客の鼻に噛みつくという珍事件を起こし、もちろん逮捕。



最近大学生の酒がらみの事件がまた目立ってきた。ついこの間、慶応大学の広告研究会が、伝統の「ミスコン」を中止せざるを得ないほどの問題を起こしたのはまだ記憶に新しいが、ほとんりが冷めない11月21日、今度は近畿大学の男子学生が逮捕された。飲食店で数人と共謀し、若い女性に大量に酒を飲ませ、意識不明にした上でわいせつな行為をしたというもの。その翌日には千葉大の医学部の学生も同様の罪で逮捕された。女性を酔わして……などは言語道断、さらに急性アルコール中毒にでもなれば死に至ることがある。この学生にきちんと厳罰を下すことができないければ、日本に将来はない。酒を飲む機会が多い年末年始、くれぐれも気を付けて欲しい。



イラスト：菊峰志麻